

平成25年度事業計画書

はじめに

平成 25 年度、大阪市博物館協会は設立 4 年目、公益財団法人としては 2 年目を迎える。また、現在大阪市から受託している博物館・美術館管理運営の指定管理期間は最終年度となる。

当協会においては、各種の事業を施設ごとで実施しており、平成 25 年度についても次頁以降の事業を予定しているが、ここでは公益財団法人への移行を認定された「協会事業の位置付け」と「協会経営計画」を再確認するとともに、協会事業の「めざす方向性」について記しておきたい。

1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成 24 年 4 月から公益財団法人として事業を実施している。

(1) 公益目的事業

学芸員（専門職）が中心となり、遺跡の発掘調査をはじめとする文化財の調査研究と修復・保存、さらには歴史、考古、美術、東洋陶磁、自然史に関する資料の収集や調査研究を行い、その成果を、報告書の刊行や博物館等の施設を使った展示、教育普及、学習支援などの活動を通じて、広く公開・活用するための事業

この事業については次の 9 事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

(2) 収益事業等

① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

2. 協会の経営計画

経営計画は平成23年9月に策定され、「団体のビジョン」「経営目標」等が定められている。

(1) 団体のビジョン

協会の設置目的を実現するため、次の4つの基本方針の下で活動することとしている。

- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出する。
- ② 都市大阪にふさわしい、さまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめざす。
- ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
- ④ 30年を越える遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

(2) 経営目標

博物館5施設の指定管理者として平成26年度以降も引き続き指名されることをめざし、上記のビジョンに沿って、平成23年度から平成27年度までの5カ年の目標を5点掲げて活動することとしている。

目標1 指定管理5施設全体の常設展入館者数の増加

〔27年度目標〕2,160千人 〔23年度実績〕1,903千人

目標2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

〔目標〕年間で15本程度 〔23年度実績〕18本

目標3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

〔目標〕年間400回・参加7万人 〔23年度実績〕497回、約6万人

目標4 指定管理5施設全体での学校利用の促進

〔27年度目標〕延べ3,300校 〔23年度実績〕延べ2,965校

目標5 当協会所管の各館並びに(財)大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開 〔目標〕年間80件 〔23年度実績〕108件

3. 協会事業がめざす方向性

- ・府市統合本部が本年2月に出した文化施設一体運営の「基本的方向性」(自立的・戦略的経営が期待できる地方独立行政法人)をめざす)や、大阪市ゆとりとみどり振興局の「平成25年度運営方針(案)」を踏まえ今後の事業の方向性を見据えていく。
- ・今後の事業展開としては、上記経営計画の「(1)団体のビジョン」を基本とし、とりわけ「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する」ため、博物館施設や文化財事業の発信力を高める。
- ・学習施設としての博物館群や大阪文化財研究所が連携し、郷土大阪に対する「愛着」や「誇り」を育むため、「学校の博物館利用促進」や「学校教育支援」に取り組む。
- ・協会事業の点検評価を行い、ニーズに即した事業の実施と効率的な運営をめざす。

I. 大阪文化財研究所事業

蓄積した知識と経験をもとに大阪市域の遺跡を発掘調査し、報告書を作成するとともに、遺跡や出土資料を良好に管理して地域の文化資産として活用する。また、考古学・歴史学・地質学・建築学・保存科学など多様な分野の学芸員が資料や情報を収集し、国内外の研究機関と交流を深め、大阪の歴史と文化財の研究を行う。

これらの成果をもとに、博物館・美術館、地域団体などと連携し、発掘体験や出土資料の展示、講座・ワークショップ、刊行物やインターネットによる情報の提供など、文化財に触れるさまざまな機会を設けることで文化財の公開・教育普及に努め、大阪の歴史と文化を発信するとともに郷土大阪への愛着や誇りを育むことに寄与する。

また、文化庁と東北3県からの要請により、埋蔵文化財の調査と保護のために学芸員を福島県に派遣する。

1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

(1) 文化財調査受託事業

発掘調査では、市営住宅関連工事他に伴う長原遺跡および市用地関連遺跡をはじめとする市内の各種公共事業や民間開発に伴う緊急発掘調査、ならびに国庫補助金による史跡整備事業に伴う発掘調査等40件に速やかに対応する。

報告書作成では難波宮跡、北河堀町所在遺跡、瓜破遺跡等20件のほか、大阪市内北部方面の報告書を作成して調査成果の公表に努める。

(2) 保存処理・分析事業

市内遺跡出土の文化財を保存し、展示等の活用に供するほか、他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を積極的に受託し、実施する。

(3) 文化財関連施設の管理事業

難波宮跡公園や埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理など、遺跡や出土品を良好な状態で保存・管理するとともに、地域の文化資産として普及事業を通じた活用を図る。

2. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用

木製品保存処理の新技术（トレハロース含浸処理法）の継続的な研究を推し進めるとともに、市内発掘出土品の保存処理・理化学的な分析を行う。

また、処理の済んだ資料を博物館・美術館の展示等で活用するとともに、技術力や人材を活かし、学会において保存科学技術の公開や一般に対する教育普及に努め、文化財の調査と公開等に関する事業を積極的に実施する。トレハロース含浸処理法については、5月に国際博物館会議水浸考古遺物保存会議（於イスタンブール）で発表を行う予定。

3. 文化財に関する研究

個々の学芸員による文化財や考古学、歴史学に関する研究を行い、科学研究費補助金をは

はじめとする外部の競争的資金の獲得に努め、講演会や研究紀要の刊行等で成果を公表する。

現在、発掘調査で得られたデータの標準化と網羅的な蓄積により、広範囲にわたる遺跡の時間的・空間的な構造と特性の解明を進めている。その成果を日々の発掘調査や整理作業に反映させるとともに、研究紀要や情報誌、ホームページのほか、大阪歴史博物館における展示に活用することで効果的に公表されるように工夫する。

また、上記の保存科学以外にも、韓国の財団法人嶺南文化財研究院をはじめとする海外研究機関や研究者との国際交流を進めることで、大阪の歴史と文化財の研究に供する。

4. 教育・普及事業

(1) 発掘調査による資料の活用

発掘調査の成果を直接多くの市民に公開すべく、大阪市教育委員会と協議しながら現地説明会を積極的に開催するとともに、出土品や写真、図等を大阪歴史博物館と協力して速報展示や常設展内での陳列、年度ごとの調査成果を総覧する特集展示「新発見！なにわの考古学」展等で活用する。また、大阪市立の博物館・美術館群や各地の文化財関連施設、博物館・美術館の展示へ協力するほか、出版社等への資料提供等も行う。

また、遺跡に隣接して出土品を展示している各地域の公共・民間施設（市内30数箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）への協力や、依頼による新規展示施設の企画・設置を行う等、発掘調査の成果を地域に密着して公開し、地元意識の醸成や地域振興に貢献することを図る。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に随時、対応する。

(2) 講座等による生涯学習および人材育成

大阪歴史博物館での「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る講演会」をはじめとする講座や催しを大阪市立の博物館・美術館群と協力して実施する。また、「平野区誌出版記念講演会（平野区民センター）」・「いちょう大学（大阪市教育振興公社）」・「平野住民大学講座（平野区画整理記念会館）」・「すみよし北講座（市民交流センターすみよし北）」等の他団体が開催する市民向け生涯学習事業に対し、企画・講師派遣等で協力する。

そのほか、大学や国内外の文化財研究機関からの要請に応じて講師を派遣し、人材育成や技術指導に協力する。

(3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示

文化庁等外部の補助金を獲得し、大阪市の博物館・美術館群及び地域の団体と連携して、「難波宮フェスタ」・「なにわの宮リレーウォーク」等の市内の遺跡と出土品を活用した体験イベントや見学会を行う。また、各区の市民団体と連携して講座・展示の企画制作を行い、「大阪あきない祭り」・「中央区民まつり」・「長原・六反古代市」等へ出張展示やワークショップに参加することで地域活動に支援・協力する。

(4) 体験活動

難波宮跡体験発掘を大阪歴史博物館と共同で開催し、市内児童を対象に、直接発掘現場を体験し出土遺物に触れる機会を提供し、学校教育を支援する。

(5) 情報発信

情報誌『葦火』(隔月)等の図書の刊行・頒布を行い、インターネット上にある当研究所ホームページや、大阪市の博物館・美術館群、地域団体と共同で制作している「なにわ まナビ ガイド(文化庁補助金事業)」を活用して、文化財に関する各種情報や催事情報等の発信に努める。

(6) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書及びほかの関連図書等の収集・管理に努め、他団体や個人の活用にあつたす。

(7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成20年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を今年も開催する。

5. 大阪市の博物館・美術館との連携

(1) 博物館協会内連携による企画出品展示協力

平成25年10月29日(火)から12月8日(日)まで開催される特別展「再発見!大阪の至宝ーコレクターたちが愛したたからものー」(於:大阪市立美術館)において、山根徳太郎と難波宮発見にかかわるコーナーを企画・展示する。

そのほか、調査・研究、展示、教育普及、広報等の各般において、法人が運営する大阪市の博物館・美術館をはじめとする関係機関との連携を積極的に進め、文化財に関する事業及び博物館・美術館活動の活性化に努める。

6. 東北復興支援

文化庁および東北3県から全国に向けた埋蔵文化財発掘調査のための専門職員派遣要請に応じ、1年間の予定で学芸員1名を福島県(財団法人福島県文化振興財団)に派遣する。

II. 大阪歴史博物館事業

大阪歴史博物館では、大阪の歴史と文化を国内外に発信するとともに、郷土大阪に親しみをもち理解を深めるため、大阪市域の歴史や文化を対象とした展示や事業を中心としながらも、より広域な視点から大阪府域をカバーする歴史系総合博物館としての役割も果たすことができるよう、行政区域を越えた埋蔵文化財の展示や、大阪府の他の博物館等との事業連携のあり方を模索していく。また、より多くの方々に博物館に関心を持っていただけるよう、特別展や教育普及事業に新しい展開を図る。

1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集をはかる。新収蔵資料には燻蒸を実施し、最適な環境での資料の保管を行う。

2. 展示事業

(1) 常設展示

館蔵品や埋蔵文化財の計画的な展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施する。

(2) 特集展示

館蔵品や大阪文化財研究所による最新の埋蔵文化財の調査結果を活用し、「修復品・新収お披露目展」、「大阪の凧」、「近現代大阪の地震」、「新発見!なにわの考古学 2013」、「新発見史料からみる江戸時代の道頓堀」、「近代建築の記憶」、「御所人形の世界」「幕末大坂の絵師 藪長水」の年間8本の特集展示を開催する。

(3) 特別企画展「生誕 100 周年 織田作之助と大大阪」

[平成 25 年 9 月 25 日(水)～10 月 18 日(金)]

小説『夫婦善哉』で広く世に知られる織田作之助(1913～47)。彼が生まれて今年でちょうど 100 年を迎えるので、それを記念して、その人生や文学を、彼を育んだ「大大阪」という時代背景とともに紹介する。

(4) 特別展示

①特別展「幽霊・妖怪画大全集」

[平成 25 年 4 月 20 日(土)～6 月 9 日(日)]

幽霊や妖怪は、古来より想像され、長く語り継がれるなかでさまざまに表現されてきた。

本展では、福岡市博物館蔵のコレクションから江戸時代に活躍した伊藤若冲や円山応挙らの著名な絵師をはじめ、個性的な浮世絵師として人気のある歌川国芳とその一門が描いた幽霊や妖怪画の優品を多数紹介する。

②特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」

[平成 25 年 7 月 3 日(水)～9 月 16 日(月・祝)]

本展では、1995 年から放映された人気アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」に登場する武器類をモチーフとして、それに触発された現代刀匠たちが新たに制作した刀剣類を展示す

る。展示を通して、伝統文化の持つ技術力・創造力の高さを若い世代をはじめとする多くの市民に伝えることを目的とする。

③特別展「戦国アバンギャルドとその昇華 変わり兜×刀装具」

[平成25年11月2日(土)～12月8日(日)]

戦国武将達の緊張感から紡ぎ出された究極のかたちとしての変わり兜、そして泰平の江戸時代に開花したデザイン性の強い変わり兜、それぞれの造形の持つ「力」を紹介するとともに、刀装具という極小の世界に繰り広げられた多彩なデザインを紹介し、これらの造形が持つ、現代アートをも凌駕しうる「力」を改めて評価する。

④特別展「手塚治虫×石ノ森章太郎 マンガのちから展」

[平成26年1月15日(水)～3月10日(月)]

「マンガの神様」「マンガの王様」ともよばれた手塚治虫と石ノ森章太郎に焦点をあて、戦後のストーリーマンガの誕生から、アニメ・特撮などメディアミックスに拡大するマンガの進展、国内外の現代アーティストにまでおよぶマンガの影響力を原画や映像作品などを通じて紹介する。

(5) 博物館協会内連携による企画出品展示協力

平成25年10月29日(火)から12月8日(日)まで、重要文化財の明王贈豊太閤冊封文など大阪の代表的な歴史資料等を「再発見!大阪の至宝—コレクターたちが愛したたからもの—」(於:大阪市立美術館)で展示する。

3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、上記をはじめとする科学研究費補助金による研究を行い、学会等において成果を発表する。

4. 教育・普及事業

学芸員による「なにわ歴博講座」や「古文書講座」、外部講師による話題性のあるテーマでの講演会やシンポジウム、大阪市内の遺跡をまわる見学会、子ども向け体験教室等を実施し、市民や子どもが大阪の歴史と文化を学ぶ機会を提供する。また教育センターや科目別研究会とも連携し、学校団体による利用促進を図る。

5. 学校・市民等との連携

大阪文化財研究所との連携による難波宮の体験発掘など法人が運営する各館・所はもとより、講師派遣等をとおして学校との連携を図るとともに、教育センターとの共催による教員研修の開催や、大学生の博物館実習の受け入れをおこなう。

また、博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域のNPO法人等との共催事業をとおして市民団体との連携を図る。

6. 情報発信、広報宣伝

ホームページ・歴博カレンダー(季刊)・ポスター・チラシ、及びマスメディア等とおして、幅広く効果的な情報発信・広報宣伝を実施する。

7. 来館者サービスの向上

文化庁の補助金により作成した「AR難波宮」を楽しむための端末(タブレット)の提供、案内サインの改善、スタンプカードの実施、レストランとの提携など、来館者のニーズに応じたサービスの向上を図り、博物館利用の促進に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・券売・清掃の実施。設備等の保守点検の実施。安全で快適な施設の運営に取り組む。

Ⅲ. 大阪市立自然史博物館管理運営事業

大阪市立自然史博物館は、地元大阪を中心とした自然に関する展示や観察会などを通じて、市民に自然をよく知り学んでもらうためのさまざまな機会を提供し、共に自然と人間のよりよい未来を考えていくことを目的としている。この基本的な考え方のもと、平成25年度は以下の項目に重点的に取り組んでいく。

- ・ 特別展「いきものいっぱい大阪湾」の開催に向けて関係団体と共同して調査を進める。また大阪湾岸にある複数の博物館施設・国土交通省などと連携して、「大阪湾 Years 2012-2013」事業の一翼を担い、地元の海に対する市民の関心を高めていく。
- ・ 市民参加による調査活動「プロジェクトU；大阪を中心とした都市の自然に関する調査」を継続して実施し、成果を26年度特別展として開催できるよう、取り組みを強める。

1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国更には必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス45度の低温薫蒸を基本とし、必要に応じて薬品薫蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、これまでも取り組んできた標本情報のデジタル化や公開を今後も進めるとともに、収蔵資料目録を刊行する。

東日本大震災で被災した博物館資料の「標本レスキュー」事業については、一昨年・昨年度の活動の総括を行い、今後に向けた課題を検討する。

2. 展示事業

(1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。

そして、中長期的な視野に立った系統的な展示更新の検討を進める。

(2) 特別展示

① 特別展「発掘・モンゴル恐竜化石展」

世界でも有数の恐竜化石産地、モンゴル・ゴビ砂漠において1992年に日本の研究機関とモンゴルの共同調査が始まり、ほぼ全身の骨が保存された子どものタルボサウルス、巣の中で化石になった15体のプロトケラトプスの赤ちゃん化石などの発見が相次いでいる。このようなモンゴルの恐竜化石の魅力を、実物標本で紹介している。

<期間> (開催中) ～ 平成25年6月2日(日)

<展示コーナー>

ゴビの化石の魅力、ゴビの発掘地-1 ブギンツァフ、ゴビの発掘地-2 ツグリキンシレ、ゴビの発掘地-3 バイシンツァフ、ゴビの発掘地-4 フレンドゥッフ、ゴビの発掘地-5 ホエルザン、そして研究室へ など。

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社

② 特別展「いきもの いっぱい大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」

大阪湾の環境の過去、現在について最新の資料をもとに、模型や写真を使って紹介するとともに、博物館のこれまでの独自の生物調査や、市民の協力を得た大規模な調査に基づき大阪湾の生物の多様性を、標本・写真・解説などで紹介する。また、漁業などを通じた人との関わりも紹介し、関連行事も行いながら、市民の方々に他の海域には見られない大阪湾の独自の自然の豊かさを知ってもらい、将来を考える際の様々な面におけるヒントとして有効利用してもらおう。

<会 期> 平成25年7月20日(土)～10月14日(日)(予定)

(3) 特別陳列など

特別陳列「お披露目！ 博物館に届いた新しい標本」(予定)

主に最近1年間に、博物館資料に加わった動物・昆虫・植物・化石などの標本を紹介する。

<期 間> 平成25年秋から冬期間に予定

(4) 博物館協会内連携による企画出品展示協力

平成25年10月29日(火)から12月8日(日)まで開催予定の「再発見！大阪の至宝—コレクターが愛したたからもの—」(於：大阪市立美術館)において、展示に協力する。

3. 調査・研究事業

学芸課内のプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、「プロジェクトU；大阪を中心とした都市の自然に関する調査」を継続して実施する。

「いきもの いっぱい 大阪湾」展に向けて「大阪湾再生連絡会」、「大阪湾海岸生物研究会」など関係団体と共同して春から初夏の調査を進める。

科研費基盤研究A『自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探究」事業の実践と連携効果の実証』の計画に基づき、瀬戸内海沿岸各地での調査および普及教育活動に、それぞれの地域の関連施設と連携しつつ取り組む。

調査・研究の成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。

4. 普及教育事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・ジュニア学芸員になろう！・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど

博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「自由研究相談会」、「標本同定会」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。新たなメニューを開発するなど事業の充実に努める。

5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、Teacher & Museum Network による情報提供等で学校教育を支援する。

「教員のための博物館の日」を8月に実施し、博物館が進める学校教育支援事業の理解を深めてもらう。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業に協力する。自然史科学関連のNPO法人などが実施する博物館連携に関する各種事業に協力する。

併設施設との連携についても、積極的に進める。当館のネイチャースクエア「大阪の自然誌」がある「花と緑と自然の情報センター」は、「長居植物園」との複合施設である。そして、両施設は隣接し、互いの相乗的効果を生かしていくことを大切にしている。毎月の相互連絡会を開催し、今後とも「長居植物園」の事業と密接な連携・協力を図っていく。

西日本自然史系博物館ネットワークの理事長館として、館相互の連携事業、研修活動、東日本大震災レスキュー活動の総括などを推進する。

6. 情報発信、広報宣伝

常設展の入館者増を図るため、地下鉄車内の最寄り駅案内放送を取り入れるなど、広報宣伝を強化する。当館のホームページを充実し、年間を通じた利用促進を図る。また、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝を積極的に行う。さらに展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援を行う。

7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組む。また、ゴールデンウィークやお盆時期の定例休館日の臨時開館、関西文化の日の実施等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。また職員の意識向上に努め、施設のよりよい維持・管理を組織的・継続的に取り組む。

IV. 大阪市立美術館事業

大阪における「文化と美術の情報拠点」として魅力のある総合美術館をめざすために、平成25年度については特に、アメリカ・ボストン美術館所蔵の日本美術に関する特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」をはじめとする3本の特別展を開催する。また、所蔵品・寄託品によるコレクション展（平常展）では、より美しくよりわかりやすい展示となるように工夫を凝らし、やや規模の大きなコレクション展である特集展示も3本開催する。こうした展覧会の展示や講演・講座の開催、近鉄文化サロンとの協働講座などを通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、学習支援とともに市民の美術に対する関心を高めて、来館者の増加を図る。一方で、様々な展覧会や講演会・講座・論考などのために作品の調査・研究を行い、一新したホームページを活用して、新たな美術情報の発信を行う。また、作品の収集・保管・貸出をはじめ、施設と設備の維持管理にも万全を期す。

1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈等による館蔵品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努める。また、それらを適切に保存・管理するための収蔵環境や、照明・展示ケースなどの展示環境を整えて作品を適切に収蔵する。あわせて、平常展や特別展・特別陳列などで展覧するとともに、貸出しによる他館の展覧会への出品や、他の研究機関などへの観覧に供する。

2. 展示事業

国宝、重要文化財の勸告承認出品館及び公開承認施設として、館蔵品や寄託品等の作品をより広く市民の方々に展覧することに努める。そのため、一定のテーマによるコレクション展（平常展）の開催、館独自の企画に基づいて特別に所有者から作品を借用する大規模な特別展の開催、他の共催者と開催する多様な内容の特別展の誘致などに努める。これらの展示事業を通じて、市民文化や情操・教養の向上とともに、学術の発展に寄与することを目指す。

(1) コレクション展（平常展）

市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高めるため、館蔵品と寄託品から構成されるコレクション展を開催する。コレクション展は、当美術館活動の根幹と位置づけ、ホームページ等による広報をさらに充実し展開する。また、さまざまな小テーマを設定し、日本や中国の美術の楽しさを実感できるような展示を行う。あわせて最新の学術的知見を反映させる。なお、コレクション展の中で特にテーマや内容、広報の上で重要なものについては、「特集展示」と銘うって開催する。

<特集展示>

①「たっぷりみたい屏風絵Ⅱ」 [平成25年8月6日(火)～9月1日(日)]

田万コレクションなどの桃山～江戸時代の館蔵品や、社寺・個人から寄託を受けている作品の中から近世屏風絵などの名品を選び展覧する。昨年度好評だった特集展示の第

2弾。

②「根付と装身具」 [平成 25 年 9 月 7 日(土)～10 月 14 日(月・祝)]

カザールコレクションの根付を中心に、印籠・煙管筒・櫛・笄・簪など、江戸時代の装身具類を小袖などとともを一挙展覧する。〈特別展と併設して開催〉

③「地中海沿岸の美術」 [平成 26 年 1 月 5 日(日)～2 月 11 日(火)]

館蔵の古代イタリア・エトルリアの陶器類、エジプトのキリスト教徒コプトによる染織や石彫などを中心に、地中海沿岸に花咲いた文化の一端を展覧する。

(2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、特別展を開催する。館蔵品や寄託品を用いたり、全国の寺社や国内外の美術館、博物館、個人所蔵の作品を特別に借用する大規模な自主企画の特別展を開催したり、全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致する。

①「ボストン美術館 日本美術の至宝」展 [平成 25 年 4 月 2 日(火)～6 月 16 日(日)]

在外コレクションとしては世界随一の規模を誇るボストン美術館の日本美術コレクションの中から彫刻・絵画 70 点を紹介する。修復後、世界初公開となる曾我蕭白の「雲竜図」をはじめ、「幻の国宝」とよばれる日本美術の至宝が一堂に里帰りする。

②「第 59 回全関西美術展」 [平成 25 年 7 月 9 日(火)～7 月 21 日(日)]

大阪の芸術振興を図るため、昭和 16 年に大阪芸術展覧会として発足した日本画・洋画・彫刻・工芸・書の 5 部門の公募展で、入選作品と招待作家の作品をあわせて展示。

③「北魏 石造仏教彫刻の展開(仮称)」 [平成 25 年 9 月 7 日(土)～10 月 20 日(日)]

世界的な中国彫刻コレクションとして知られる「山口コレクション」を中心に、国内に所蔵される代表的な優品を併せて展覧し、北魏時代の仏教彫刻の全体像を浮き彫りにする。

④「再発見！大阪の至宝ーコレクターたちが愛したたからものー」

[平成 25 年 10 月 29 日(火)～12 月 8 日(日)]

昭和初期以降、大阪市的美術館・博物館には、大阪や関西にゆかりある収集家が集めてその後寄贈・譲渡された膨大なコレクションが集積されてきた。こうした集積の中から美術の名品を選んで一堂に展覧し、それぞれのコレクションを育んだコレクターのまなざしと地域の感性を浮彫りにしながら、大都市の欠かせない施設としてのミュージアムとそのコレクションの関係を再考する。

この特別展については、博物館協会内各館・所と近代美術館建設準備室が企画出品展示協力し、開催する。

⑤「第 45 回日展」 [平成 26 年 2 月 22 日(土)～3 月 23 日(日)]

大阪に春を告げる毎年開催の伝統ある現代美術の総合公募展で、日展の大家作家による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の 4 府県の地元作家入選作品もあわせて展示。

3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動の実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携をおこなって独自企画の展覧会を実現させ、講演会・シンポジウムなどを開催する。また、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などに論文やエッセイなどを掲載し、その研究成果を積極的に発表して、今後のさらなる学術発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

特別展の期間中に、展示内容の理解を促進するための講演会やギャラリートークなどを開催するほか、最新の調査研究の成果や美術文化全般にわたって、広く市民に普及し理解していただけるようなテーマでのセミナーなどを開催する。また、展覧会内容や館蔵品については、展覧会図録・所蔵品図録などのほか、ホームページなどでも最新情報を提供する。多くの市民の方々に美術館に親しみを持っていただくため、近隣地区の天王寺区や浪速区、新世界の各種団体との共催によるジャズやクラシック・コンサート等を美術館で開催する。加えて、近鉄百貨店の近鉄文化サロンと協働・連携して、学芸員による美術講座と展覧会の観覧をセットにした教育・普及事業を企画・実施する。

5. 学校・市民等との連携

学校との連携事業として博物館学の実習生を受け入れ、また、将来学芸員を目指すインターン（研修生）とともに、教職員などの研修も実施している。

美術研究所が自主事業として行なう体験学習会「美術館へ行こう」では、夏には児童・生徒を対象とする学習会を天王寺動物園と協働で開催し、冬は大人向けにデッサン教室を実施している。

また、各種市民団体の見学会の誘致や作品解説等を行ない、市民が美術により広く触れる機会を提供しているほか、各種団体との協働に努め、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な検討と実践に努める。

6. 情報発信・広報宣伝

美術館情報を掲載しているホームページを24年度末にリニューアルして情報発信力を強化するとともに、展覧会スケジュールや特別展・常設展の情報を掲載した広報誌「美をつくし」を、年2回（3月、9月）発行する。また、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社への情報提供を通じて、新聞・雑誌などの媒体で広く広報・宣伝活動を行う。こうした活動を積極的に展開し、広く市民をはじめとする利用者に対して、美術館概要、利用案内、展覧会の内容、館蔵品の紹介などに努める。

7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内サインや館内のサイン表示の改善をはじめ、展示品のわ

かりやすい説明など観覧者にやさしい環境作りを行う。また、受付窓口に寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員が共有することにより、市民の生の声を的確に美術館活動に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

8. 施設と設備の維持管理

施設と設備の補修は、限られた予算を有効に活用しながら、効果的な予算執行に努める。また、作品の保護と保全に関する空調などの整備と能力の維持・向上はもとより、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう常に施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持に努める。さらに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全で快適な施設の維持管理に努める。

9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と、友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室「日曜洋画会」などの事業の双方を財団の自主事業と位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。

V. 大阪市立東洋陶磁美術館事業

東洋陶磁美術館は、大阪市が世界に誇る「安宅コレクション」「李秉昌コレクション」などの東アジアの陶磁器コレクションを収蔵・展示する陶磁器専門美術館である。優れた館蔵品による平常展示を、より多くの市民に紹介することによって、東洋陶磁の魅力をアピールし、市民の文化や教養の向上に寄与することに努めている。また、市民からの要望が高い分野の美術工芸品を紹介することにより、陶磁器愛好家にとどまらない利用者層の拡大もめざしており、平成 25 年度はフィンランドの工芸品による特別展を開催する。同時に、東洋陶磁の研究拠点として、調査研究活動の成果を反映させた学術性の高い展覧会を世界に先駆けて開催しており、今年度は中国・定窯の発掘成果を紹介する国際交流企画展を開催する。これらの事業を広報普及活動により積極的に情報発信し、広く市民に周知する。

1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入に努める。

東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

また、常駐警備及び厳重な保管設備により作品の安全性を確保する。

2. 展示事業

(1) 平常展(常設展)

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約 100 点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

(ただし、企画展・特別展開催時は規模縮小により展示点数も減少する)

また、平常展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催する。

① 「海野信義コレクション 中国古代の俑と明器—墓室を飾ったやきもの」

[平成 25 年 4 月 20 日(土)～7 月 28 日(日)]

海野信義氏からご寄贈いただいた漢時代から唐時代の俑と明器約 20 点を紹介する。

② 「李秉昌コレクション韓国陶磁」[平成 25 年 8 月 10 日(土)～11 月 4 日(月・振休)]

李秉昌博士よりご寄贈いただいた韓国陶磁約 20 点を紹介する。

③ 「人間国宝 塚本快示一定窯白磁の美を追い求めて」

[平成 25 年 11 月 23 日(土・祝)～平成 26 年 3 月 23 日(日)]

人間国宝・塚本快示(1912—1990)の作品約20点を紹介する。

(2) 企画展

① 企画展「白^{はくとうろ}禱廬コレクション—中国古陶磁清玩」

[平成25年8月10日(土)～11月4日(月・振休)]

卯里欣侍氏(号白禱廬)より寄贈を受けたコレクションから、中核をなす中国陶磁約80点を選び展示する。中国の文化、芸術に造詣の深い卯里氏が半生をかけたコレクションは、時代的、技法的に広範囲に及び、氏の美意識を反映したものともいえる。新石器時代から清時代までの約5千年にわたる中国陶磁の魅力を辿る。

② 国際交流企画展「定窯・優雅なる白の世界—窯址発掘成果展」

[平成25年11月23日(土・祝)～平成26年3月23日(日)]

宋代五大名窯の一つにも挙げられる定窯。「牙白」と呼ばれる象牙のような白色を特色とする優雅な作風の定窯白磁は、唐・五代から宋代、金代にかけて宮廷をはじめ広く愛好された。定窯の窯址は長らく謎であったが、20世紀の前半に河北省曲陽県にあることが分かり、さらに近年大規模な発掘が行われ、多くの成果が得られた。本展では、定窯白磁の歴史を知る上で極めて重要な最新の窯址出土品約60点を日本で初めて紹介し、優雅なる定窯白磁の美の秘密に迫る。

(3) 特別展

特別展「森と湖の国 フィンランド・デザイン」

[平成25年4月20日(日)～7月28日(日)]

豊かな自然に恵まれ、冬の厳しい寒さと日照時間の短いフィンランドの人々は日常生活を大事にした。自然と独自の文化を文様に生かし、様々な素材に応用したフィンランド・デザインは、第二次世界大戦後に奇跡的な発展を遂げた。「普段使い」を重視し、使いやすさとデザイン性の双方を誇るフィンランドのガラスや陶器、家具は、普遍的で洗練されたものとなった。「生活の中の美」に根差した美しいフォルムを紹介する。

(4) 博物館協会内連携による企画出品展示協力

平成25年10月29日(火)から12月8日(日)まで当館の国宝2点を含む中国、韓国陶磁の名品約35点を「再発見!大阪の至宝—コレクターたちが愛したたからもの—」(於:大阪市立美術館)で展示する。

(5) その他(館外での共催展覧会)

平成24年3月12日から当館館蔵品による「江戸名^{えどめいじ}瓷—伊万里展」が中国・甘^{かん}肅^{しゅく}省^{しょう}博物館を皮切りに平成25年5月25日(予定)まで巡回開催されている。

3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、科学研究費等の競争的資金の活用も含め、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講

演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

(1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解促進や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 特別展などにおける外部講師による講演会の開催
- ② 講座、レクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族藝術学会などとの提携による研究会などの開催

(2) ボランティアによるガイド事業

常設展、企画展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行う。平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

5. 各種団体との連携

法人が運営する各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校、地域活性化計画、周辺各施設との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知させる。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

7. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによる展示解説など、サービスの向上に努める。

8. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。

9. その他事業

(1) 出版等事業

展覧会図録、館蔵品図録、関連書籍、ミュージアムグッズなどの製作・販売を行う。

(2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学术交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。

VI. 大阪城天守閣事業

平成 26・27 年度は、全国的にも関心の高い大坂冬の陣・夏の陣から 400 年という節目の年を迎えることから、本年度はその「大坂の陣 400 年」に向けて着実に準備を進め、大阪城に対する関心を絶やさぬよう、各種事業を展開する。

本年は、大阪城が国の「史跡」に、城内の古建造物が国の「重要文化財」に指定されて 60 周年の記念の年にあたるため、特別展では文化財という観点から大阪城の歩みや価値について考える。

また、本年は滋賀県長浜市の長浜城との姉妹城提携 30 周年記念の年でもある。長浜市は黒田官兵衛の黒田家発祥の地とも伝承され、平成 26 年の大河ドラマ「軍師官兵衛」放映も見据え、長浜城歴史博物館と連携して、種々の事業を展開する。

こうした周年事業を軸に、重要文化財の櫓公開をはじめ、ゴールデンウィークや秋には天守閣前でステージイベントなども行ない、幅広く効果的な広報宣伝をして、集客を図る。

1. 資料の収集、保管事業

豊臣時代歴史資料や大阪城関連資料、武器武具参考資料、大阪郷土資料について、収集及び寄託化に努め、また展示用複製資料を作成する。収蔵庫および展示ケース内の温湿度や空気環境を良好に保ち、収蔵庫内防疫により資料の保全を図る。損傷のある収蔵品については専門機関に依頼して修復を施す。

2. 展示事業

(1) 常設展示

2 ヶ月を目途に文化財展示を全面的に更新する。そのつど 3 階・4 階の各フロアごとに、新しいテーマの展示を立案する。

(2) 特別展

史跡・重要文化財指定 60 周年記念 「大阪城展（仮称）」

[平成 25 年 10 月 5 日（土）～11 月 24 日（日）]

明治維新以降、大阪城には大阪鎮台（のち第四師団司令部と改称）・中部軍司令部などが置かれ、昭和 6 年の天守閣復興にともない一部が公園として一般市民に開放されたものの、大部分は陸軍用地として第二次大戦の終戦を迎えた。戦後、大阪城は一旦 GHQ の管理下に置かれたが、昭和 23 年にわが国に返還されるとともに、大阪市にその管理が委ねられることになり、戦災で荒廃した大阪城の公園整備が進められ、櫓・門など古建造物の修復工事も行なわれた。その結果、昭和 28 年に大阪城は国の「史跡」に指定され、大手門・千貫櫓・金蔵など 13 棟の古建造物が国の「重要文化財」に指定された。その後昭和 30 年には、「史跡」が「特別史跡」に格上げになり、平成 9 年には昭和 6 年復興の天守閣が近代建築として評価され、国の「登録有形文化財」となった。今年は大坂城が「史跡」「重要文化財」に指定されて 60 周年にあたるので、この機会に文化財という側面から大阪城

の歩み、大阪城の価値を考えてみたい。

(3) テーマ展

①南木コレクションシリーズ第13回「古写真にみる なにわの行事・祭礼」

[平成25年3月21日(木)～5月6日(月)]

大阪城天守閣が所蔵する大阪の庶民資料「南木コレクション」の中から、大阪の伝統的な行事や、寺社をはじめとする祭礼の様子を撮影した古写真を展示する。町人文化が花開いた江戸時代の面影を強く残す戦前の貴重な写真から、大阪の庶民文化のルーツを探る。

②「戦国武将の手紙(仮称)」

[平成26年3月21日(金・祝)～5月5日(月・祝)]

武将たちが出した手紙からは戦国史の基礎的事実や乱世の風習のほか、彼らの心情や戦略、構想、生活など、さまざまな情報が読みとれる。いくつもの個性が輝いた激動の時代を実感するうえで、好適の素材が武将たちの書状である。本展ではこの分野のコレクションとしてトップクラスの質を誇る大阪城天守閣の収蔵品から逸品を選びすぎり、読めば読むほどおもしろい武将たちの手紙の魅力をわかりやすく伝える。

(4) 博物館協会内連携による企画出品展示協力

平成25年10月29日(火)から12月8日(日)まで、当館の武器武具・漆工芸・錦絵等の名品約30点を「再発見!大阪の至宝ーコレクターたちが愛したたからものー」(於:大阪市立美術館)で展示する。

3. 調査・研究事業

「豊臣時代資料・史跡調査」および「徳川時代大坂城関係史料調査」を実施するほか、収蔵品や関連テーマについて、個別あるいは他の研究機関と連携して調査・研究を進める。

それらの成果を『大阪城天守閣紀要』・『徳川時代大坂城関係史料集』等を作成・刊行することにより公表する。

4. 普及事業

(1) 教育普及

講演会・シンポジウム・史跡見学会等において歴史や資料に関する知識の普及を図る。

また市内の小・中学校と連携して「大阪城写生画展」を開催する。また、自主事業として、館内に兜・陣羽織(レプリカ)の試着体験コーナーを設け、希望者に体験の機会を提供する。

(2) 資料の活用・普及

収蔵品図録や展覧会図録、名品絵はがき、館蔵品目録、大阪城の案内書等を作成し、頒布する。また収蔵品や関連資料の写真を作成管理し、公共機関や研究者、出版・放送関係機関その他からの掲載や複製作成・商品化の要望に応じ積極的に提供することで、資料の普及に努める。

他の博物館施設等からの資料貸出依頼に応じるだけでなく、展覧会の企画や展示指導等についても協力し、天守閣資料の普及を図る。

5. 史跡の活用・普及事業

(1) 文化集客イベント

重要文化財に指定されている城内古建造物の特別公開を行うほか、訪れた人々が大阪城や大阪の歴史・文化を身近に感じていただけるようなイベントを、自主事業として季節ごとに開催することで大阪城の魅力を高め、集客につなげる。

- ①大阪城ファミリーフェスティバル（5月）
- ②夏イベント「七夕まつり」ほか（7月）
- ③大阪城秋まつり 重要文化財「櫓・金蔵」特別公開（秋）
- ④大阪城秋まつりステージイベント（秋）
- ⑤迎春イベント（1月）

(2) 姉妹城・友好城郭連携事業

大阪城とゆかりの深い姉妹城（長浜城・和歌山城）や友好城郭（上田城・エッゲンベルグ城）と連携しつつ展覧会等の共同事業を展開し、相互に史跡の活用および宣伝普及を図る。

平成25年度は長浜城との姉妹城締結30周年の節目に当たっており、長浜城歴史博物館と連携して、大阪・長浜の双方で、互いの城の歴史と魅力をアピールするために、講座・史跡見学など種々の事業を展開する。

(3) その他

2014・2015年に「大坂の陣400年」を控えて、のぼり・バナーの設置や上記の文化集客イベントの拡充、姉妹城・友好城郭との連携などに努めるとともに、大阪市や民間事業者などとも連携を強めて各種事業を展開する。

6. 情報発信・広報宣伝

国際的金融危機に端を発する国際経済の沈滞化などによる国内外の観光行動が減少している厳しい状況の中、大阪を代表する施設にふさわしい特別展、テーマ展及びイベント等を実施するとともに、ホームページ・ポスター・チラシ・マスメディア等を通して、幅広い効果的な情報発信・広報宣伝を行うことにより、一層の集客力の向上に向け努力する。

7. 来館者サービスの向上

改札・インフォメーションにおける外国語対応及び音声ガイドシステムの拡充並びにリーフレット、館内サイン、文化財展示解説などの外国語表記に取り組み、館内案内の充実を図る。

8. 施設の維持管理

改札・案内・警備・清掃・昇降機の運転業務を実施するとともに設備等の定期的な保守点検を実施し安全で快適な施設の維持管理に努める。

9. 大阪城天守閣売店の運営

天守閣売店では、商品についてホームページを活用し、季節ごとの売れ筋商品を紹介する等広報活動を充実させるとともに季節に応じたディスプレイを行い、来館者の増加並びに、収入の確保に努める。

VII. 法人の連携事業

大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪城天守閣に大阪文化財研究所を加えた当法人の事業の中で、一体的に取り組むことが効果的な次の事業について、関係機関や大学等との連携も視野に入れて積極的に展開するとともに、3年間実施してきた「外部評価」の結果も踏まえつつ内容の充実や向上を図る。

特に平成25年度については、協会の総力を挙げた展覧会「再発見！大阪の至宝」を市立美術館で開催する。また、「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育支援」を推進するとともに、「今後の広報戦略」の策定をめざす。

1. 法人の自主事業

(1) 博物館内施設連携による展覧会

現指定管理期間の最終年度である今年度は、大阪（大坂）が古くから日本の政治・経済の中心地であり、人・物・金の集積地であったことに焦点をあて、コレクターでもあった豊臣秀吉や財界人を魅了した美術品や文化財にスポットを当てた特別展「再発見！大阪の至宝ーコレクターたちが愛したたからものー」を、協会内の館・所（大阪歴史博物館・東洋陶磁美術館・大阪城天守閣・自然史博物館・大阪文化財研究所）と近代美術館建設準備室が企画出品展示協力し、10月29日から12月8日に大阪市立美術館において開催する。

また、7月20日から10月14日に自然史博物館で開催する特別展「いきもの いっぱい大阪湾」は、大阪歴史博物館とも一部連携した展示が予定されているように、協会内の組織が個々に連携する展覧会の開催についても引き続き追求していく。

(過去の開催事例)

- ・平成22年度：二つの特別展、大阪歴史博物館の「新淀川100年 水都大阪と淀川」と自然史博物館の「みんなでつくる淀川大図鑑ー山と海をつなぐ生物多様性」については、共同での講座やプレ展示・現地見学会等で相互に連携して開催。
- ・平成23年度：大阪歴史博物館で開催した「大阪城・エッセンベルグ城友好城郭提携3周年記念事業～日欧のサムライたち～」(大阪城天守閣との自主企画特別展)
- ・平成24年度：大阪歴史博物館の企画展示「大阪を襲った地震と津波」(自然史博物館・大阪城天守閣・大阪文化財研究所が企画協力)

(2) 学校等との連携

大学との連携については、昨年度に引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づき、市民向け講演会の開催、博物館学講座（授業）を通じた連携、大学教官との共同研究などを実施する。また、キャンパスメンバーズ制度により、学生・職員による博物館施設利用の促進を図る。

小・中学校についても校園長会や教育研究会への積極的な広報の展開とともに、教育委員会や教育センターとの連携を深め、「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育支援」を推進するため、各館・所の取り組みを共有し、改善・拡充策を検討する。

大阪市立科学館を運営する（公財）大阪科学振興協会等とも密接に連携し、講座の共催や博物館情報の交換などについてより一層の連携を図ることで、当法人の事業充実に活かす。

(3) 法人の広報事業等

各館・所の広報を支援するとともに、年度当初に刷新を図る法人本部ホームページの運営を充実して各種情報の発信を行うとともに、今後の広報戦略の策定をめざす。

(4) 事業評価

各館による自己評価をもとに事業の成果と課題を幅広い見地から確認する「外部評価委員会」を3年間開催してきたが、24年度に実施した“総合評価”の結果を踏まえ、25年度以降の事業に反映する。

(5) 協会職員の資質向上

22年度から取り組んでいる職員の資質向上のための研修について、協会として引き続き開催する。

(過去の開催事例)

- ・22年度：「LED照明導入の実際に関する研修」
- ・23年度：「文化財取り扱いに関する研修」（協力～文化庁）
- ・24年度：日本博物館協会主催の研究協議会「博物館災害対策－防災からポスト防災まで」を共催

2. 博物館・美術館管理運営事業に関するもの

(1) 共同広報事業・共同キャンペーン事業

当法人の5館・1所に法人外の大阪市立科学館等の施設を加えた「てくてくミュージアム」グループとして、ポスター・ニュース・ガイドなどの紙媒体およびWebなどによる共同広報を引き続き展開するとともに、市民が各施設を回遊しそれぞれの新たな魅力を発見してもらうキャンペーン「ミュージアムウィークス」を実施する。

(2) 文化連携事業

博物館・美術館が他の文化施設や文化・芸能に関する技能の保持者や団体等と連携して事業を実施し、単館にとどまらない新たな文化の魅力を創り出し、市民に提供する。

(3) 普及啓発事業

「てくてくミュージアム」グループの強みを活かして、ひとつのテーマを違う専門的立場からアプローチする市民向け「ミュージアム連続講座」を開催し、博物館群の魅力をアピールするとともに、グループ館を回遊する形での利用促進に努める。